

星に願いを

熱海市長 齊藤 栄



星空の美しい季節がやってきました。私は子どもの頃から星を見ることが好きでした。生まれ育った品川では星があまり良く見えなかったこともあり、小学生時代は毎月渋谷の「五島プラネタリウム」に通い、夜空の星達の物語に胸を踊らせました。夏の白鳥座やこと座、冬のオリオン座やすばる星など、今でもすぐに見つけることができます。

私が最も感激した星空は、アフリカのケニアで見たマゼラン星雲です。肉眼ではっきり見ることができました。はつきりといっても、星雲ですからぼんやりとしか見えないのですが、それでも、日本からは見えないマゼラン星雲がケニアからは見えると言うこと、10年以上以上に放たれた光を今この地球で見ていることに、宇宙の壮大なロマンを感じました。ちなみに、「宇宙戦艦ヤマト」に出てくるイスカンダル星は14万8千光年の彼方、このマゼラン星雲の中にあるという設定です。

熱海では街の光が少ないところに行けば、天の川を見ることが出来ます。熱海に来てまだ間もない頃、思いがけずにそれを発見したときは、かつての天文少年の端くれとして小躍りして喜んだものです。また、相模湾から昇る満月の美しさも格別です。初島を脇に配して海面に月の道が現れる様は、まさに値千金と言えます。私は少し仕事で疲れた時などは夜空をひとり見上げて、熱海のこの素晴らしい自然からパワーをもらっています。

新たなスタートラインに立つて



熱海市長 齊藤 栄

皆様こんにちは！ 市長選挙のため、3カ月ぶりのコラムとなります。

9月の選挙では皆様の付託を受け、再び市政を担うことになりました。初心を忘れることなく、新しい熱海の創造に向けて誠心誠意努めてまいります。今回も多くの皆様に支えていただきました。4年前よりも熱海の津々浦々まで歩き、多くの方々と直接お話しし、暮らしぶりや私への期待といったものを実感としてつかむことができました。今後の市政運営にしっかりと生かしていきます。

当選証書をいただいた翌日、9月14日から私の2期目がスタートしました。9月市議会定例会で所信表明演説を行い、今後4年間の齊藤市政の基本的な方針を示しました。この中で掲げた、新政策ビジョンのうち「子ども医療費の無料化」や「桜の散策路の整備」については、実現のための条例改正案や補正予算案を提出するとともに、市内経済の活性化のための予算も組み込みました。今期を実りあるものとし、皆さまに還元すべく着々と手を打っています。

今、熱海市は新しいステージにあります。新しい熱海をつくっていくために、市役所、民間事業者、市民の皆様の総力を尽くして行かねばなりません。新政策ビジョンを速やかに実行すべく全身全霊で取り組んでまいりますので、どうかご協力をよろしく願います。



4年間をふり返って

熱海市長 齊藤 栄

熱海市長に就任して、この9月で4年の任期を迎えます。「人生、山あり谷あり」という言葉がありますが、一つの山を越えるとまたすぐ次の山があり、多くの課題の対応に気の休まる時はありませんでした。

一番つらかったことは、行財政改革を進める中で、多くの事業を廃止、凍結、削減しなければならなかったことです。例えば敬老祝い金の廃止です。私も人の子です。できれば人に嫌われることはしたくありません。しかし、市にお金がない中、新たに何かを行いたければ、何かを削るしかありません。なけなしのお金を広く薄く配ってもその効果はすぐに消えてしまいます。同じ税金を使うなら、介護予防事業などに重点的に使う方が、ご本人そして市の財政にとってもメリットが大きいと考えての苦渋の決断でした。

一番嬉しかったことは、ある新成人の方から手紙をもらったことです。市長になって初めての成人式で、新成人の皆さんにスピーチをしました。後日、「市長さんの熱いメッセージに感動しました。成人式を迎え、何を目指したらよいか悩んでいる僕の人生に強い勇気を与えてくれました。成人式に参加して本当に良かったと思います。」との手紙が届きました。日々様々な課題と格闘している中、色々な人たちとの出会いや支えに励まされます。

来月の本欄はひとまずお休みです。また、お目にかかれることを楽しみにしております。



熱海の夏祭り

熱海市長 齊藤 栄

7月は熱海の夏祭りシーズンです。特に、来宮神社『こがし祭り』（7月14日～16日）、初島の初木神社例大祭（7月17日～18日）、網代の阿治古神社例大祭（7月19日～21日）と連続して行われる一週間余はまさに夏祭りのゴールデンウィークと言えます。

初めてこがし祭りの山車コンクールを見た時の印象は衝撃的でした。その熱気は他に見たことがなく、町中に若者があふれます。また、祭りが近づいてくると、子どもたちのお囃子の練習が夕刻に響き、祭りの季節がやって来たなとムードを盛り上げます。

阿治古神社例大祭は「京、大阪、江戸、網代」と言われるほど栄えた漁師町の風情を彷彿とさせる大変勇壮なものです。秀吉公ゆかりの「流れ瓢箪」の模様の浴衣に身を包んだ若衆たちが豊漁と無病息災を願い、御神船『両宮丸』で町内を駆け抜ける様は圧巻です。できることなら、泊り込んで、お祭りの追っかけをしたいところです。

いずれの祭りも強い個性があり、地域の貴重な宝です。しかし、市外の人はその魅力を知らない人がほとんどです。私が生まれ育った、東京都品川区戸越にも夏祭りはありませんが、熱海のように老若男女総出の盛大なものではありませんでした。お祭りは参加することが醍醐味です。市民が楽しむことが基本ですが、観光地熱海としてしっかりとPRし、市外に熱海ファンを増やしたいと思います。

新人研修

熱海市長 齊藤 栄



今年度、熱海市は職員17名を採用しました。一般事務職6名のほか、建築技術職、消防士、保育士、幼稚園教諭などの専門職が11名です。4月の採用と同時に、5日間にわたる新人職員研修を行いました。市の現状や課題、熱海市職員として働くために必要な知識などを集中して学ぶためです。

この研修の冒頭、市長講話として私は公務員として働く心構えを中心に話をしました。「今、地方自治体の仕事ほどやりがいのある仕事はない」と伝える一方、「皆さんの給料が市民の税金から出ていることを常に忘れてはいけない」「市民と接するときには、背筋を伸ばし、相手の目を見て、そして笑顔で対応するように」を強調しました。

この研修の約1カ月後、ランチミーティングという形で彼らを集めました。「今、救急の現場から戻ってきました」と息を切らせて来た消防職員もいて、彼らが徐々に職場に馴染み、そして成長していることがわかりました。また、研修後のレポートで、「早く市民に信頼される職員になりたい」「これから大きく変わっていく熱海市の力になりたい」「熱海市を守る消防士になるよう、火の中に飛び込むつもりで頑張ります」などの感想が書かれ、大変嬉しく思いました。

彼らをしっかり育てることで熱海の将来は大きく変わってきます。熱海市はこれから職員教育に力を入れていきます。

あじろ浜市そらっぴい祭



熱海市長 齊藤 栄

4月25日に開催された「あじろ浜市そらっぴい祭」に参加しました。

天候に恵まれた中、当日試験的に運行された、「海上タクシー」の始発で渚を出発。30分のクルージングで網代着です。初体験のカモメや鳶への餌やりを楽しんだ後、浜市で賑わっている網代港をこの目でしっかり見ようと甲板に出たところ、網代太鼓の心尽くしの演奏が乗船客を歓迎してくれました。

会場では網代名物の海産物やイカメンチは勿論のこと、手作りパン、野菜、花苗など様々なものが勢ぞろい。今年から始めたのでしゅうか、海産物を入れた箱を首から下げた売り子さんが売り歩くのもご愛嬌で、楽しく浜市を盛り上げます。足湯、ヨーヨー釣り、消防車放水体験、和太鼓をはじめとする各種演奏などイベントも満載。「てくもぐウォーク」「ウェスト4」といったまち歩きイベント参加者も訪れ、会場はまさに大盛況でした。

浜市で少し早いお昼ご飯をゆっくり楽しんで後は、歩いて数分の国の登録有形文化財「平井家住宅（平正）」を見学。普段は公開されていない平正がこの日は公開しているとの耳寄り情報で駆けつけたのですが、丁寧に解説いただいた、網代の往時の繁栄・風情をたっぷり偲ぶことができました。

会場からの美しい景色を堪能し、海の幸を楽しみ、歴史に触れるといった二拍子揃った、大満足の網代でした。お薦めです。

第一回熱海検定

熱海市長 齊藤 栄



第一回「熱海検定」を受験しました。ご当地検定の熱海版で、熱海の歴史・文化・地理・自然・温泉・観光などに関する四者択一の五十問からなる試験です。四十問正解すれば合格ですが、予想外に難しい出題で苦戦。前夜の猛勉強が功を奏して、何とか夫婦とも合格することができました。

今回の「熱海検定」受験を通じて、熱海には多くの知られざるロマンがあることを再認識しました。例えば、熱海市役所は御用邸跡に建っていますが、この土地は岩崎弥太郎が宮内省に提供したものです。岩崎弥太郎は今年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」に登場する主要人物のひとりで、まさに時の人です。

「熱海検定」の設問はそれぞれの分野にわたっているだけでなく、地理的にも泉から網代までを網羅した内容になっています。これは「熱海検定」の企画・運営を行った「チームトライアル100!実行委員会」という市民グループの貢献が大きいのと思います。本から得た知識に止まらず、実際に自身が見聞きした事柄に基づいて設問が作られていると感じました。「熱海検定」はご当地検定としては後発なもの、市民が作ったという大きな特徴であり、誇りにすべき事柄です。

合計91名の受験者の中には、東京、神奈川を含む11名の市外受験者がいました。「熱海検定」をきっかけに、さらに熱海ファンが増えることを期待します。

市長メッセージ

泉の植樹祭



熱海市長 齊藤 栄

先日、泉で行われた「泉華街道」の植樹祭に伺いました。泉地区の活性化を願い、泉寺坂から聖ヶ丘までの約5キロの道路脇に桜、梅、紅葉などを植え、花の回廊を作ろうとするものです。既に140本を植えたとのこと。当日は多くの関係者そして来賓が集いました。

市内では既にいくつかの地域で「花を生かしたまちづくり」が進んでいますが、その中でも大変すばらしい活動だと感じました。それは「自分たちではなく、次の世代のために何かを残したい」という主催者のご挨拶からうかがえます。花苗と異なり、花木の生育には長い年月を要します。しかし10年後、20年後に花木が成長した暁には、貴重な地域資源となります。全国的に有名な河津桜がここ四十年余の取り組みであることは好例です。

もう一つの特筆すべき点は、この取り組みが行政でなく、民間そして市民主導であることです。地元NPOの有志が、地域の町内会、老人会、子ども会、関係団体などを巻き込んでこの日が実現したそうです。費用についても完全に手弁当であり、関係者の皆さんの熱い思いに本当に頭が下がります。

泉地区は隣の湯河原町に隣接し、神奈川県との境に位置します。今後、広域で観光地間の連携を図っていく観光圏事業が進むにつれ、泉地区の重要性はますます高まります。民(民間・市民)の力を結集し、泉華街道が域内有数の花の名所になることを期待します。

市長メッセージ

新成人の皆さんに



熱海市長 齊藤 栄

先日、熱海市の「成人式」が開催されました。今年の新成人達は1989年、なんと平成生まれです。晴れ着姿に包まれた多くの新成人と中学時代の恩師も集まり、大変和やかな雰囲気の中で行われました。

私は式典の中で式辞を述べましたが、最も伝えたかったのは「自分の信じる道を行って欲しい」ということです。二十歳の頃は色々なことに悩みます。特に仕事や進路についてはなおさらです。私はかつて福祉の専門学校で学生の就職担当をしたことがあります。その経験から、その時代のはやり廃りで職業を決めるのではなく、自分にとってやる意味がある、社会にとってやる意義がある仕事を選んで欲しいと思っています。私自身、「地方自治」ということに意義を見つけてから約15年間さまざまな仕事を経て、現在の市長という仕事に就いています。私はどんな夢も10年本気でやれば必ず実現すると信じています。

また、「社会は自分達の力で変えられる」ということも伝えました。新成人の皆さんには、是非、外の世界で多くの経験を積んで欲しいと思います。他流試合をたくさんして力を付け、大きく成長して、そして熱海に戻ってきて欲しい。新しい社会そして熱海を作っていくのは新成人の皆さん自身だからです。

熱海市民が皆、新成人の皆さんの成長と活躍を期待しています。新成人の前途洋々たる未来に幸あれ！